

Maneger Coment ~ 筑波大戦 ~



ディフェンスのやり方を確認しないと

気が抜けていた部分もあったと思うが

20 節終了時点順位表 ↓

仕方ないんじゃないですか。先制点はあつちが上手かった。手前のサイドから繋がれて、振られた時のマークをしつかりしないといけないが、仕方ない。その後の点数の方が防げたと思うが、失点してしまった、というのはあったのかもしれないが。4点目のFKも(ボールを取りに)いかなければ無かつただろうし。

負けているわけだから、シュート打たしてというか、コースを切って打たせればGKは(ボールが)飛んでくるコースが分かるわけだから。5点目のPKもそうだが、あそこまでは確実にやられてしまう可能性を読めば、でも若いので、仕方ない。一生懸命やった結果です。

彼ら(筑波大)はボールの止め方や2対1の作り方がとてもうまいのとドリブルで仕掛けてきて、位置が良ければ横パスを繋いでサイドチェンジしてというやり方なので、ドリブルのスピードを止めただけでは不十分で、切り返されたり逆を向かれてしまうとやられてしまう。うちの選手は精一杯付いていただけで、中に切り返されたりすると...。そこが弱かつたのではないか。

それと、うちはワンボランチなので、両サイドが空いてくるところに相手のセンターフォワードがぐっと引いてきて、一人がそれ

うちのサッカーをやらないと点数は取れない

を見てもう一人が飛び出して(選手)のを見れば良かったのだが、瞬間的にできなかったのか、付いて行くのが怖かつたか、そこを使われてしまった。

(良かったことは)10人なつても諦めないで、点数を取れたこと。相手も点数が取れて楽だつたと思うが、うちの選手たちは諦めないで点を取りに行ったことは良かったんじゃないか。

(後半への指示は)サッカーというスポーツは、人間性と理念のスポーツだから、うちのサッカーをやらないうと点数は取れないし、それを継続して連続してやろうと。10人になつたから、1人が1.5倍動けば相手と同じくらいでやれるんじゃないか、という話をして、そのつもりで行つたと思う。もちろん彼らのボール回しやテクニクというのはあるが、最終的には止めればいいわけだから、ボールは回されるのは回させているのだと思え、と。そう思えば楽じゃないですか。そういう感じで取れるところでボール奪って早く攻めようという、うちのやり方を徹底

国士大戦プレビュー インカレ出場を懸けた一戦

順位	チーム名	勝点	試合	勝数	分数	負数	総得点	総失点	得失点差
1	明治大学	45	20	14	3	3	41	14	27
2	筑波大学	37	20	11	4	5	42	28	14
3	国士館大学	37	20	11	4	5	34	27	7
4	駒澤大学	36	20	11	3	6	34	22	12
5	中央大学	32	20	9	5	6	41	36	5
6	順天堂大学	29	20	8	5	7	32	30	2
7	神奈川大学	28	20	8	4	8	29	29	0
8	慶應義塾大学	27	20	8	3	9	29	28	1
9	早稲田大学	26	20	7	5	8	30	28	2
10	流通経済大学	21	20	6	3	11	26	32	-6
11	法政大学	13	20	3	4	13	22	43	-21
12	拓殖大学	7	20	2	1	17	14	57	-43

「完敗」試合後、酒井隆介(歴4)は表情を曇らせた。立ち上がり失点し、さらには金久保が退場し10人に。苦しい試合だった。10人で2点とれたことは確かに好材料ともいえるが、リーグ優勝を逃した事実は、余りにも重いだらう。

リーグ開始前からチーム全体で目標として掲げていた3冠獲得を達成することが叶わなかつた駒大が次節対戦するのは、3位の強豪、国士大だ。



国士大は一人ひとりがチームの戦術を理解し、確かなパスワークを強みに勝ち星を重ねてきた。前の対決では0-3と完敗した相手だが、夏の大臣杯では明大を破っており、間違いなくその強さは「本物」であると言える。

駒大には悪いニュースがもう一つ。豊富な運動量でチームを支え続

してやれど。そういう感じで話をしていた。相手も多分楽しつたと思うので、気が抜けていた部分もあったと思うが。

後半に関しては、5人でやったわけですからその割にはやつたのではないか。4年生は最後のリーグ戦だし、笑って終わってほしいので、あと2試合、何とか頑張つてほしいなと思います。それとやっぱ、彼らのディフェンス力ですね。もう一度きっちり練習をしないと、やっぱやられてしまう。もう一回ディフェンスのやり方を確認しないと。前の試合からは中日しかなく、勝つていたから。もう少しきっちり確認しておけば良かったかもしれない。相手の瀬沼君も出なかつたし、ちよつと違つていたので。

けた金久保が次節は出場停止。

しかし、「誰がいなくなったからといってサッカーを変える必要はない、やることは一つだけ」林堂真(現3)の言う通り、こん時こそ、原点に戻り、闘うことが重要だ。(白瀬 忠意)